

タウンミーティング開催結果概要			
会議の名称	外房における生物多様性保全と地域の生活とのかかわり		
日時	平成18年12月16日(土) 17:00~20:00		
地域・会場	いすみ地域 いすみ市役所会議室	出席人数	約50名
主催団体	外房地区タウンミーティング実行委員会		
説明	○ 県側から環境基本計画及び生物多様性ちば戦略について、概要説明		
現地からの報告	<p>① 外房の自然と生物多様性について</p> <ul style="list-style-type: none"> 外房には数多くの谷津があり、そこに貴重な生物を含め、豊かな生態系が作られている。夷隅の海も豊かな海であり、魚用資源とともに貴重な野生生物も生息している。 <p>② 南総の谷津田の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> 谷津田は食物連鎖の基点となっており、自然の凝縮地であり、景観は文化財である。しかしながら、県内では「昔から受け継がれてきた谷津田」は無くなってしまった。すでに耕作放棄がされた谷津田については小貯水池を作ることを提案したい。 <p>③ いすみの漁業と海の生物多様性について</p> <ul style="list-style-type: none"> 夷隅の海の沖には、器械根(いすみ根)と呼ばれる広大な面積の磯根が広がっている。この磯根が水揚げ日本一を誇るイセエビの他、豊かな水産資源を育てている。その資源を後世に残すためには、資源管理・資源育成を行い、自然を保護していくことが重要。 <p>④ 外房地域の環境学習と自然体験について</p> <ul style="list-style-type: none"> 外房の自然と生物多様性を理解するために田んぼを通じた学習・体験が重要である。一宮町といすみ市で稲策体験を通じた環境学習・体験を進めてきた。小・中・高それぞれで、自然とヒトの関係、さらには地域の歴史と生活を体感する機会となった。 <p>⑤ 自然保護・環境学習型の観光事業を目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本有数のスナメリの生息地である夷隅の海の自然保護・環境学習型の観光を模索している。食物連鎖の最上位に位置するスナメリの保護を訴え、海の自然保護を進めたい。 <p>⑥ 南九十九里自然観察園構想について</p> <ul style="list-style-type: none"> 九十九里浜の南、一宮町で自然を見守る活動をしている。海岸、河口に漂着するゴミ清掃活動などを進め、さらに、この地域の海岸域の保護を中心にすえた、自然観察園構想を提案している。 		
主な意見等	<ul style="list-style-type: none"> 千葉の農家、特に稲作を考えると極めて厳しい状況にある。谷津田の重要性を訴えても、現実に耕作することは難しい。 今の国・県の農政を考えると、農家は成り立たない条件しか見えてこない。 自然と共存する一次産業を考え、意欲的に取り組んでいる農業者・漁業者に対しては、今ある縛り・規制を取り除くようにしてほしい。水産・農林以外の県の部署(自然保護課など)との連携も考えてほしい。 農産物の自由化・減反の割り当てなど、一次産業をつぶしている政策が多い。 谷津田の無農薬米ブランドなどを作る取り組みを県が積極的に進めていく必要がある。 		

タウンミーティング開催結果概要			
会議の名称	わくわくする里づくりの実践 ～地域の声よ、想いよ、とどけ～		
日時	平成18年12月17日(日) 13:30~16:00		
地域・会場	安房地域 茅葺の家「ろくすけ」(旧富山町)	出席人数	22人
主催団体	安房地域実行委員会・千葉自然学校		
体験	<p>○午前——竹を楽しむワークショップ「竹オブジェ作り」</p> <p>○午後——生物多様性タウンミーティング</p>		
説明	<p>・主催者側から4月に開催した「里山シンポジウム」を一過性に終わらせないため「農村景観・自然環境保全パイロット事業」を取り入れ、本日3回目。</p> <p>・県側から環境基本計画及び生物多様性ちば県戦略について、概要説明</p>		
グループ検討 (主な意見等)	<p>○3班に分かれ、「里山をイメージしたダッシュェ村」から、班員が事象ごとイメージを共有し図(マインド・マップ)を作成。最後に発表。</p> <p>第一グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山を生き生きさせるためには→生業(なりわい)として生活できなければならぬ→年収500万円あれば自然に人は集まる→農業は有機栽培や直販所など個人の工夫で消費者をつかんでいる→同じ1次産業でも漁業は個人の努力は通じにくい→行政や地域の取り組みが必要 ・水をきれいにする→生活雑排水や農薬が原因→水は川を経て海へと繋がる→昔は微生物が分解したが今は分解不能なものや絶対量が増えている→里山には良い微生物がありその整備が重要(時間がかかる)→緊急対策の1つの例としてEM菌をまくことも必要 <p>第二グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山、棚田→草ぼうぼうの放棄地→担い手の高齢化→景観、いやしの点からも保全を→いやしを感じない、実態を知らない→親子で体験を、調査も必要→体験と調査について連携をとって→連携に係るネットワークづくりが必要 ・南房総は、海も大きな資源。同じ話を、海に置き換えることも可能。 <p>第三グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田→「いのしし」が多い→人手が入らない→暮らしがなくなっている→しくみが必要→大山千枚田に学ぶ→足りない部分は都会から呼ぶ→団塊ジュニアが多く来る→半定住(都会にも生活の拠点が必要) ・川→魚がいなくなった→3面護岸→源流部での産業廃棄物処分場が心配 		
(まとめ)	<p>○棚田や里山、里海といった安房地域の特徴を活かした戦略が必要</p> <p>○生業として生活できるしくみが必要。観光も大きなテーマ</p> <p>○都会の人に来てもらうしくみを。楽しみながら体験できる。</p> <p>○現状などが良く理解されていない。情報をキチット伝えること、そして、地域の住民が自分たちで決めるしくみが必要。</p>		
(意見)	<p>(意見)・丸山川にダムができて以来、川の汚れがひどくなった。海のごよれは川が原因となっている。</p> <p>・安房地域は里山ばかりでなく里海も特徴であり、里山も里海も同じレベル、目線での議論が必要。</p>		

タウンミーティング開催結果概要			
会議の名称	環境タウンミーティング・松戸 —環境基本計画・環境学習基本方針の見直しに対する提案—		
日時	平成18年12月17日(日) 11:00~13:10		
地域・会場	松戸市市民会館202号室	出席人数	52人
主催団体	環境タウンミーティング・松戸		
主な意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県側から環境基本計画・環境学習基本方針等について、概要説明。 ○主な意見等 ・ 温暖化防止の講座が東葛地域で開催されなくなった。人口から考えても東葛地域でこそ必要。環境講座等の拠点づくりが必要。推進員への支援も必要。 ・ 環境について、家庭で話し合いをすべきである。 ・ 県は何かやる時にモデル事業として金をつけるが、事業が終わると市には金がなく、対応できない。事業終了時に落下点があるようにしてほしい。 ・ 推進体制として、企業や市町村、県民にどうしてほしいか、明示してほしい。 ・ 環境学習を教育の中に位置づけるべき。 ・ 環境学習について、「自然」の部分を入れてほしい。 ・ 成人男子を対象に環境教育をすべきである。 ・ 大人がみんな環境を考える場として自治会や町会を活用してはどうか。県や市から自治会に環境に関するチラシを流してほしい。 ・ 自治会活用のため、市から自治会長にプッシュすべきである。 ・ 市町村で地域ごとにエココミュニティーを形成し、活動できる機会づくりをしてほしい。環境カウンセラー・アドバイザーの活動機会づくりが必要。 ・ 見直しの際に、庁内で関連する部署を全部入れてやってほしい。 ・ 進捗状況を県民に理解されるよう情報提供し、県民の意見を入れてほしい。 ・ 国、県、市町村、市民で縦割りをなくし、連携をとることが大事。 ・ 自然環境の体系的保全の中に遺伝子組み換え生物(作物)を取り入れてほしい。県の指針づくり(農林)では、県民に開かれた形で意見を聴いてほしい。 ・ 松戸市六高台のサクラ並木等の害虫駆除で、有機リン系の薬剤を散布している。化学物質過敏症で苦しんでいる。県は危険な化学物質をできるだけ止めるよう周知してほしい。できれば、条例で止めるようにしてほしい。 ・ 東京湾で取れる魚・アサリなどが安心して食べられるように、汚染している河川・沼をきれいにする。 ・ 森林をこれ以上減らさず、自然をいかした街づくりをお願いしたい。今ではなく50年、100年スパンで考えることが必要。 ・ 三番瀬の自然保護。ラムサール条約に参加することを考えて欲しい。 		